

WA!



No. 17



「うどん県」

7月に研修会のご縁で、丸亀市の本願寺塩屋別院を参拝しました。香川「うどん県」に来たからには、うどんの食べ歩きに挑戦。市内の3店を訪ねる。それぞれ味に特徴があり、とても美味しく、しかもかなり安い。

うどんと言えば、数年前に讃岐うどんを心ゆくまでたぶりと食べるツアーに参加したことがある。醤油うどん・釜揚げうどん・だし汁をかけてと、天ぷらや、おでんを頬張りながら、ずるずると食べまくり、うどんを打つ体験もしました。

香川県では、ご法事にお参りされた方々を、うどんでもてなす家庭も多いとのこと。もちろん僧侶も一緒にうどんをする。

盆、正月、法事には家庭で手打ちうどんを作って、お客様に振舞い、また、土産にして持ち帰ってもらうそうです。「うどん」の文化が根付いているから「うどん県」のネーミングに繋がったようです。

まんのう町の土器川源流の山奥に佇む「谷川米穀店」は、元は店名のとおり米穀店であるが、うどん屋として行列ができる人気店。

店内に入るとカウンター越しに玉数と「ぬくい」「冷たい」を指定し、麺の入ったどんぶりを受け取る。薬味はネギ、青トウガラシ、スタチなど。そこへ醤油を加えれば、谷川風醤油うどんの完成。薬味としようゆが麺に絡まると、不思議な味わいが生まれる。シコシコとした艶やかな麺のうまさ感動する。会計は自己申告で、お客さんとの信頼関係が確立しています。

先代、谷川豊子さんの中指と人さし指は、長年の手作業の練りの為、第一関節から親指の方に曲がっている。きつい仕事で機械化した店が大半だが、彼女は40年以上も手作業を買っている。この真摯な心が「谷川うどんのいもち」なのかもしれません。現在は、その「いもち」の後継者の若夫婦に継承されています。

「うどん県」の奥の深さを感じながら、広島の身近な文化を振り返ると、お好み焼きや、カーブなど歴史と心を感じます。では、宗教文化ともいえる安芸門徒の「いもち」は、子ども達に伝わっているのか真摯に考える必要があるようです。

『初心者のための レクリエーション講座』 前期指導者学習会

平成25年6月3日(月)、本願寺広島別院 安芸門徒会館共命ホールに於いて約30名の参加をいただき、安芸教区少年連盟前期指導者学習会が開催されました。

研修会では講師に日本レクリエーション協会コーディネーターの佐藤ゆかり先生をお迎えして「初心者のためのレクリエーション講座・いつでも どこでも だれとでも」と題してご指導いただきました。

佐藤先生をリーダーとして「リーダー対参加者全員で行うゲーム」「二人組で行うゲーム」「グループで行うゲーム」という順番でゲームを体感し、参加者は、講習を受けながらも、皆が終始レクリエーションを楽しみました。

レクリエーションでは、リーダーをやるにしても、ゲームに参加するにしても、指導者自身がテンションを高く楽しむこと、これがとても大切なことと教えていただきました。



佐藤ゆかり先生

リーダー 対 参加者全員

★だるまさん (命令ゲーム)

- ① リーダーが「だるまさん」と言ったときだけメンバーはその通りの動きをする
- ② 「だるまさん、右手を上げてください」(メンバーは手を上げる)
- ③ 「おろしてください」(メンバーは手をおろさない)
- ④ 最後は「だるまさん、このゲームは終わります」で終わる

★後だしじゃんけん

- ① リーダーが「じゃんけんポン」と言うと、メンバーは「ポン」と返す
- ② 「ポン」「ポン」、「ポン」「ポン」と声を出す練習
- ③ 最初はリーダーと同じものを出す
- ④ 次にリーダーに勝つものを出す
- ⑤ 最後にリーダーに負けるものを出す
- ⑥ 発展として、両手を使ってリーダーが出していないものを出す
例：リーダーがグーとパー、メンバーはチョキとチョキ
例：リーダーがパーとパー、メンバーはチョキとグー

2人組

★もちとり (お座敷遊び「金毘羅船船」)

- ① 2人が向き合って座り、間に掘れる程度の物を置く
- ② 「うさぎとかめ」など歌に合わせて、交互に物の上に手を載せる
- ③ 好きなタイミングで物をつかんで持ってよいが、次は戻す
- ④ 相手が物をつかんで持ち上げた時は置く手をグーにする
- ⑤ 物があがる時はパー、物があがらない時はグーでリズムに合わせて手を載せていく

★タイタコ

- ① 2人組をつかって、じゃんけんする
- ② 勝った人は「タイ」、負けた人は「タコ」
- ③ 左手を合わせて、右手は上に上げる
- ④ リーダーが「タイ」と言ったとき、タイの人はタコの左手をパチンと叩く
- ⑤ タコの人は叩かれないうちに左手を上か下へずらす(タコの場合は逆)
- ⑥ タ・タ・タ…と、どちらかをコールする
- ⑦ タイ・タコを不公平さを感じさせないようにまんべんなくコールする
*まぎらわしい言葉を間に何度か入れる

グループ

★ハンカチ取り

- ① 何人かでグループをつくる(多すぎても少なすぎても面白くない)
- ② 円になり座り、ハンカチを真ん中に立てる
- ③ リーダーが「グリーンピース」と言うと全員で「グー」と言いグーにした手を上にあげる
- ④ リーダーが「パイナップル」と言うと全員で「パー」と言いパーにした手を上にあげる
- ⑤ リーダーが「チョコレート」と言うと全員で「チョキ」と言いハンカチをチョキにした手で取る
- ⑥ ③④を適当に繰り返し、⑤を言う

★交互唱

- ① 2つのグループに分ける
- ② Aグループは「うさぎとかめ」を歌う
- ③ Bグループは「どんぐりころころ」を歌う
- ④ AグループとBグループが同時に歌う
- ⑤ AとBがリーダーの合図で区切りながら交互に歌う「もしもしかめよかめさんよ」「どんぐりころころどんぶりこ」「せかいのうちでおまえほど」「おいけにはまってさあたいへん」「あゆみのろいものはない」「どじょうがでてきてこんにちは」「どうしてそんなにのろいのか」「ほっちゃんいっしょにあそびましょ」



2013 (平成25) 年度

中・四国ブロック少年連盟 指導者研修会



安芸教区からの参加者の一部

平成25年7月9日(火)～10日(水)に四州教区の担当により、香川県丸亀市にある本願寺 塩屋別院にて、中・四国ブロック少年連盟 指導者研修会が開催され、各地より約70名の参加がありました。

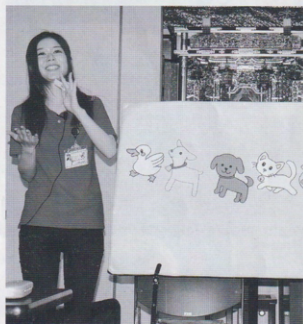


藪添隆一先生

1日目の研修は、香川大学教授であり臨床心理士^{やぶぞう}の藪添隆一先生より「『見てくれている』と、どの子も感じる先生」というテーマで講義をいただきました。まずは、盲学校・聾学校に勤めておられた時の、子どもとのふれあいの中から得た実体験の話で、講義が進みます。続いて先生は「見てくれている」と、子どもが感じる大人とは、「監視する人」ではなく「感視する人」です」と、理想的な先生像を定義し、造語を用いて説明します。

「感視する人」とは、直感で「子どもの望んでいる世界」を受け止め、自ら「子どもが望む役割」を感じ表現し、投げ返す人のことで、このような「相手中心」の姿勢から意気投合でき、共感が生まれます。この共感こそが「見てくれている感じ」なのだそうです。

注意点として、一度「感視」をするそぶりを見せれば、相手の気のすむまで付き合うべきだといえます。こちらの都合で「相手中心」から「自分中心」にすれば、「見捨てられた」と逆に子どもに疎外感を感じさせかねません。そのような危険性をお話いただきました。



またこの講義の背景として、藪添先生の師である故河合準雄師が、先生の何気ない質問に対して、急いでいる足を止めて「特別」に真っ直ぐ向き合い考えてくれたそうです。その時に「特別な1人」として「感視」されていることが嬉しく、河合師の熱意ある返答は、今も藪添先生を守り、励ましてくれているそうです。

私も同じように、子ども1人1人が特別な気持ちになれるような、指導者に成りたいと思いました。

2日目の研修は、さぬきこどもの国の増田梨沙先生^{にしもん}と西紋依里奈先生より、「音楽を通じた遊び」について実演をいただきました。

前半は、子どもと一緒に身近なもので楽器を工作する「音づくり」の実践方法を学びました。

実習したものは、ストローを加工して作る「ストロー笛」と牛乳パック・薄いビニール袋を用いた「プープー笛」の2つ。

作り方・鳴らし方にコツがあるので、「なぜ音が出るの?」「どうすればいい音が鳴るのかな?」等を子どもと一緒に考えながら楽しく学べます。

応用として「パネルシアター」の実演がありました。パネルにテンポよく絵を貼りつけ、合わせて工作した楽器で合奏をし「一体感」を楽しむ遊びも体験しました。

後半は、わらべ歌を用いた全体遊び「お月さん」の実践でした。全員で輪となり、輪の内に入るお月さん役を1人決めます。わらべ歌に合わせ、お月さんが1人を指名してじゃんけん勝負。勝った子は座り、負けた子がお月さんとなって別な子を指名してじゃんけん。これを繰り返し、最後の1人になるとおしまい。このゲームは初対面同士でも打ち解けあえる手法「アイスブレイク」の一例だそうです。

研修全体を通して、試行錯誤の過程をたくさん語っていただきました。創意工夫すること自体を楽しみ、子どもと一緒に学習の場を作ってらっしゃる、お二方の姿勢がとても印象深い研修でした。



左・西紋依里奈先生 右・増田梨沙先生

アヲハタ ジャムデッキ — ジャムづくりに挑戦! —



日曜学校や子ども会でのジャム工場見学やジャムづくり体験はいかがでしょう？

今回訪問した「アヲハタ ジャムデッキ」は、近年まで実際に製造をおこなっていた旧工場を改装し、昨年4月にオープンした人気のスポットです。ジャム製造の工場見学ができるほか、自分だけのオリジナルジャムづくりが体験でき、ジャムづくりの楽しさを味わうことができます。瀬戸内海をの目に望む場所に立地しており、船のデッキをモチーフとした鮮やかな青色のデザインの建物が印象的です。

今回は、ブルーベリージャムづくりに挑戦しました。ジャムづくり専用のジャム工房でスタッフの方の丁寧な指導をいただきながら、約2時間でブルーベリージャムが完成しました。完成したジャムはビンに詰めて、4本分をお土産に持って帰りました。

全国で販売されているアヲハタジャムはすべてこの忠海にあるジャム工場で作られているそうです。アヲハタジャムの歴史を知るとともに、工場見学向けの限定ジャムなどを販売するジャムショップなど、ジャムに関する様々なことを見て味わって楽しむことができました。



輪切りにした柑橘をモチーフにし、放射状に机が並ぶ「ジャム工房」で、スタッフの方の説明を聞きながら作ります。

材料のブルーベリーを軟らかく煮ていきます。火加減の調整や材料を入れるタイミングも丁寧に教えてくださいました。



糖度計を使って糖度を測定しました。おいしさのポイントは、果実の風味と糖度のバランスだそうです。

出来上がったジャムを熱いうちに瓶に詰めていきます。空気を抜きながら4本詰めました。

ジャムづくり体験専用の可愛いデザインのビンは季節ごとに変わるそうです。

アヲハタ ジャムデッキ

【住 所】 広島県竹原市忠海中町1-2-43

【予約電話】 0846-26-1550

【交通手段】 JR 呉線「忠海駅」から徒歩5分

山陽自動車道「本郷IC」から車で約30分

広島空港から車で約35分

【料 金】 ジャムづくり体験&工場見学コース：800円
工場見学コース：無料

アヲハタジャムデッキ_

検索



工場見学やジャムづくり体験は、完全予約制で事前に申し込みが必要です。予約状況等はホームページのカレンダーで確認ができます。大変人気がありますので予約はお早めに。(ジャムづくり体験では小学生1名につき、大人1名の同伴が必要となります)